

毎月最終土曜日に掲載予定

フランス近代の画家モネが現代アートの源流であることを、作品によって示そうという企画である。モネ自身の絵画は、初期から十九世紀後半の印象派時代をへて二十世紀になってからの作品までが、時代を追って展示される。それと関連づけながら、現代までの芸術家たちの絵画や映像作品が並べられている。

モネが手がけて、その後の作家が受け継いだことは、明るい光の表現、自由な色彩の使い方、単純な形、大胆な筆のタッチなど数多い。しばしば「よくわからない」と十把ひとからげにされる現代アートの作品であるが、それが生

## 現代アートと結ぶ展示

まれてきた過程や制作の意図を、なじみのあるモネと結びつけて読み解き、本展のよう実際に形を示して説明されると、とてもわかりやすく説得力がある。

モネ「睡蓮」(一九〇六年) Ⅱ写真Ⅱは、彼が自宅の広い庭で描いた作品のひとつである。モネは睡蓮を主題として、にじりのない色彩や、全体をやわらかく包むような光の効果、直接見えている花と水面に映る背景の対比などの表現を繰り返し試みた。やがてそういう造形的な実験



は、次世代の画家によってもさらに広く展開される。咲く花のよつに次々と生まれてくるアートの冒険の成果が、本展の見どころである。

「現代アートはモネから始まった」という考えは、もちろん唯一の正解ではない。ゴッホから始まったとも、いやセザンヌからとも言えるだろうし、逆にモネはどこから始まったのかという疑問も生じるかもしれない。歴史の流れをいろいろな角度から広く見わたし、また新しい視点でひとつひとつの作品を深く味わう。そういうおもしろさを提起してくれる展覧会である。

(浅野和生 Ⅱ愛知教育大教授)

モネ それからの1000年

世界を変える美しい本 インド・タラブックスの挑戦

▶ 名古屋市美術館 ④052(212)0001 7月1日まで